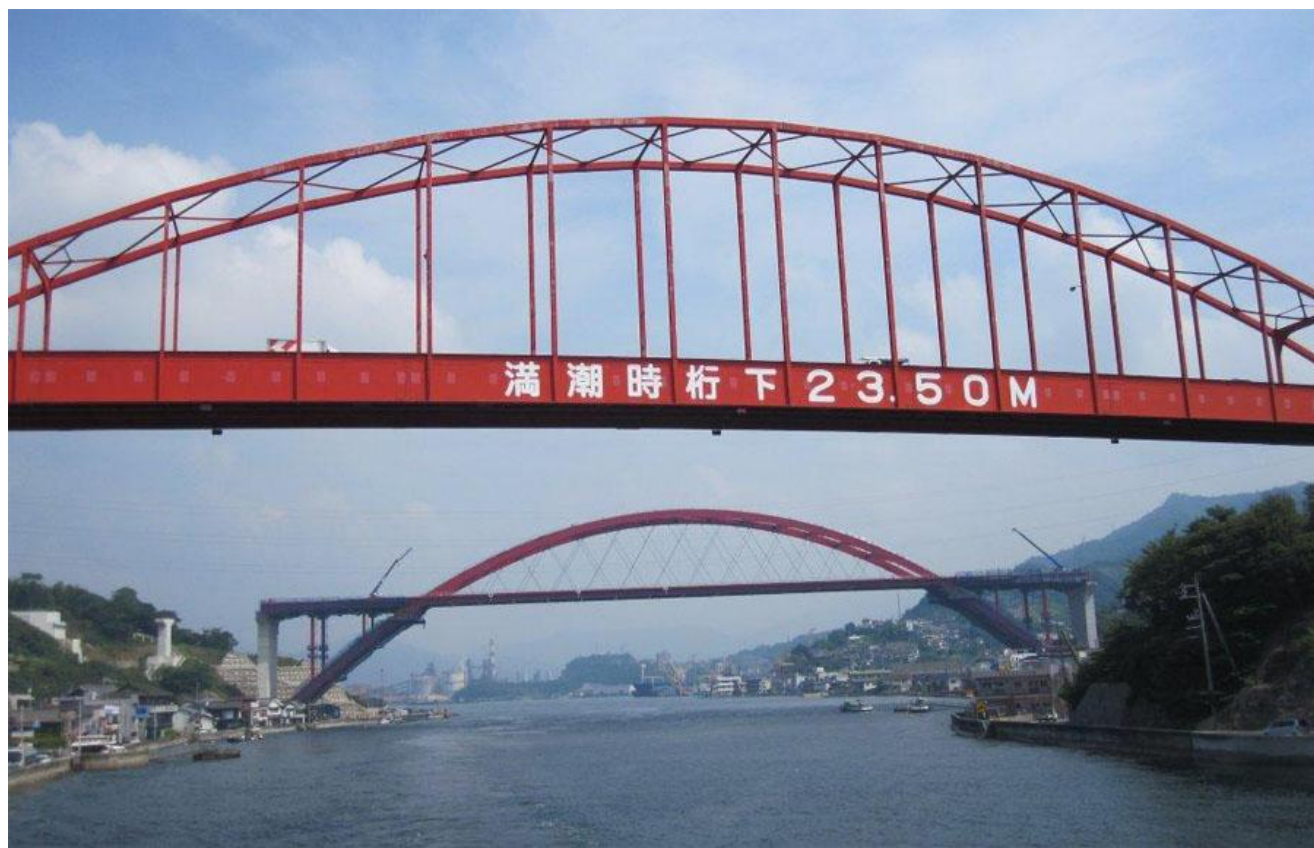


図書だより

第51号
平成23年11月25日
呉工業高等専門学校
図書館
<http://www.lib.kure-nct.ac.jp>



音戸大橋と第2音戸大橋 (撮影：呉高専建築学科3年 渡部桃子)

目次

- ・ 巻頭文 本を〇〇していますか 図書館長 笠井 聖二 2
- ・ 特別寄稿 図書館と私 教育センター長 森脇 武夫 3
- ・ 行事報告 平成23年度第1回ブックハンティング 学生会文化委員長 小丸 和平 4
ブックハンティング図書紹介
- ・ 留学生が紹介する外国の図書館
INTEC 図書館 M3 アティラ 5
- ・ 新任教員の随想
家を冷蔵庫の中に入れる方法 自然科学系分野 平松 直哉 6
携帯やパソコンもいいけど本を読もう！ 機械工学分野 吉川 祐樹 7
読書が苦手な私の「読書歴」 建築学分野 光井 周平 8
- ・ 私の推薦図書
徒然草／兼好 人文科学系分野 外村 彰 9
100年前の女の子／船曳由美 電気情報工学分野 野村 博昭 10
幽霊たち／ポール・オースター 建築学分野 仁保 裕 11
- ・ お知らせ 図書館 12
平成22年度 図書館利用状況，図書貸出回数上位10
- ・ 編集後記 12

巻頭文

本を〇〇していますか



図書館長 笠井 聖二

ちょっと、質問をします。

「本を読んでいますか」

皆さんの答えは、どうでしょうか。私の答えは、「うーん。どっちだろう」です。本は、よく買っていますので、本を読もうとはしています。しかし、読み始めるのですが、なかなか最後まで読み切れずにいます。ほとんど読んでいない本もあります。そのような本の多くが、何かしら仕事に関係する本です。勉強ということで本を買って、必要な箇所だけを読んで事が足りたり、後からじっくり読もうとしてそのままだったりしています。私は、本を読んでいるのではなく、本という資料を読んでいるだけなのかもしれません。

「読むことを楽しむ本」を、読んでいないような気がします。特に小説は読んでいません。ビジネス小説として初めてミリオンセラーになった「もしドラ」(「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」)を読んだから、一年近く小説を読んでいませんでした。その前は、いつか、思い出せないほどです。小説を読まなくなった理由は、いろいろあるでしょうが、そのひとつとして、「本屋に行かなくなった」というのがあるかもしれません。今、ほとんどの本はAmazonで買っています。欲しいと思った時に直ぐに注文できて便利です。キーワードから関係しそうな本も見つけ出すことができます。しかし、これらの本の多くは「読まなくてはいけない本」なのです。「面白い本・楽しい本」は、本屋で買っているような気がします。それも、その本を買うために本屋に行くのではなく、何かのついでに本屋の中をぶらぶらとしながら本を眺めていて、買ったような気がします。「面白い本・楽しい本」は、検索するのではなく、本に触れながら出会うものなのかもしれません。

図書館にも、本に出会うチャンスがあります。勉強するためだけではなく、本を眺めに図書館に来て下さい。ぶらぶらとしながら本棚の本を手にとってみると「読むことを楽しむ本」に出会えるかもしれません。

こんなことを書いていると、「そんな理屈はいいから、素直に本を読んだら」という声が聞こえてきそうです。本当にその通りです。最近、私は素直でないの、本にめぐり会えていないような気がします。

「本を楽しんでいますか」

と聞かれたら、「はい」と言えるようになりたいものです。

書き終わって、以前にも同じようなことを書いた気がしてきました。図書館長として、この「図書だより」の原稿を書くのも3回目です。これまでの原稿を調べましたが、違います。5年前に新任教員の原稿として書いています。タイトルもまさしく「本を読んでいますか?」でした。その原稿には、

なぜ、今、本を読んでいないのだろうか。ためしに、本屋で小説を買ってみた。そこで、小説を買うのに臆病になっていることに気がついた。それでも、本を買ってみたが、未だに読んでいない。

実は、この原稿を書くために「下町ロケット」を買いましたが、結局、まだ、読んでいません。私は、同じようなことを繰り返しているようです。

特別寄稿

図書館と私

教育センター長 森脇武夫



私は中学校3年生まで読書とは全くと言っていいほど無縁な生活を送ってきました。古き昭和時代の典型的な屋外型少年でした。学校での勉強時間以外はクラブ活動でソフトボールや野球をし、それ以外は川で魚を捕ったり・泳いだり、野山で栗や柿を捕ったり・基地を作ったりするなど、外で遊び回っていました。もちろん当時はパソコンや携帯などの電子ゲームはありませんでしたが、トランプや将棋などの遊びもあり、室内ゲーム派もいましたし、読書好きの友人もいました。私は断然外で活動するのが好きで、クラブ活動や外で遊び回って家に帰り、夕食を食べて風呂に入ればボタンキューの状態でしたので、読書の入り込む余地がなく、また読書の面白さも分かりませんでした。したがって、小学校と中学校の図書室とも無縁で、図書室が学校のどこにあったかもはっきり思い出せず、読書感想文を書くために本を借りていたと思いますが、図書室で本を借りた記憶もあまりありません。

読書に目覚めるきっかけは突然やってきました。中学校卒業後の春休みだったと記憶していますが、近所の大学生の家に遊びに行ったとき、彼の机の上にあった本を何気なく手に取って読んだ本が面白くて引き込まれました。その本は、「さらばモスクワ愚連隊」という五木寛之のデビュー作です。その後、本の面白さに目覚め、松江高専に入学してからはよく本を読むようになりました。当時は小遣いも少なく、買って読む本は限られていたため、高専の図書室から借りて読む本が大半でした。当時の松江高専の図書室は校舎棟の3階にあり、授業時間の合間に毎週のように本を借りに行きました。井上靖、司馬遼太郎、松本清張、吉川英治など文芸作品の誰の本がどこにあったかを今も思い出すことができます。私が4年生のときに図書館棟が今の呉高専のように校舎棟から少し離れたところに建ち、図書室は図書館へと変わりました。新しい図書館の様子はあまり

記憶に残っていませんが、4年生か5年生の時に新しい図書館の受付窓口で読書感想文の執筆を頼まれ、五味川純平の「人間の条件」について書いた記憶が残っています。図書室・図書館で勉強することはありませんでしたが、図書室・図書館は本を借りるところとしてよく利用しました。

ところで、図書館は、「トショカン」と読みますが、図は「ズ」で、書は「ショ」ですから「ズショカン」とは言わないだろうかと思ったことはありませんか。広辞苑で調べてみると、図書館はlibraryの明治中期の訳語で、それまではズショカンといったとあります。図書館は、欧米の図書館システムを日本に導入した時の英語の和製漢語であり、図について呉音の「ズ」ではなく、漢音の「ト」が使われたようです。ちなみに、図書は漢書の「易経」にある「河図洛書（カトラクショ）」の略だそうです。「河図（カト）」とは黄河に現れた竜馬の背中にある毛の模様を写した図で、「洛書（ラクショ）」とは中国の川である洛水に現れた神亀の背中にある模様を写した図だということです。両方とも文字ではなく図であったことが面白いですね。

いずれにしても、図書館は図書・記録その他の資料を収集・整理・保管し、必要とする人に利用してもらう施設で、これまでは図や書など紙を媒体にしたものが中心でしたが、最近は映像や音声などの収蔵が増え、閲覧方法もテレビやパソコンを使うなど多様化しています。この辺のことについては前号までの「図書だより」で笠井図書館長が詳しく書かれています。図書館も科学技術や社会の変化とともに大きく変わっていますので、本を読む・借りる、勉強するなど以外でも楽しんで利用してください。どんなことでも楽しんですることは知的活動につながり、これからの生活・人生を豊かなものにしてくれます。

行事報告 平成23年度 第1回 ブックハンティング

学生会 文化委員長

小丸 和平



前回、4, 5年生が各クラス2名ずつを選出し、広島ジュンク堂書店を訪れました。大半のクラスは参加していましたが、上の学年になるにつれて不参加者が多く目立ちました。恐らく、あまり本に興味がなく面倒なのではないかと思えます。



実際、自分もあまり本を読まないで、ブックハンティングに興味がありませんでした。ですが、昨年文化副委員長として参加してみて、普段あまり本に触れる機会がない分、色々なジャンルの本があり、中には自分の興味が湧くような本もいくつかあり、思いのほか、楽しく本を選ぶことができました。

上の学年になるにつれ忙しくなると思いますが、本に触れるよい機会なので是非、参加していただけたらと思います。

11月には、1, 2, 3年生を対象に23年度第2回ブックハンティングが開催されます。1年生は初めて参加するので内容がいまいち分からないと思いますが、1万円程度の本を選ぶ機会はそうそうないので、積極的に参加してほしいと思います。



ブックハンティング 図書紹介

元素周期 萌えて覚える化学の基本

D・A

なかなか頭に入らない元素記号…。これを分かりやすく、覚えやすく書いてある本です。元素記号が覚えにくい人は、ぜひこの本を読んでみてはどうでしょうか？

猫でもわかるゲームプログラミング第2版

N・S

学校で習うC言語を基礎に、わかりやすくゲームのプログラミング方法が書いてあります。いつも遊んでいるゲームを自分の手で作ってみませんか？

中検4級問題集 2011年版

T・M

中国語検定(中検)をご存知でしょうか?今や中国語は国際語です。4, 5年になると第二外国語の授業があり、中国語に触れる機会もあるかもしれません。高専の図書館には検定本もたくさんあるから活用しよう!

心を動かす音の心理学

Y・R

現代では、iPodやPCなどで簡単に音楽を聴くことができ、趣味で音楽を聴くこともできます。しかし、普段音楽について深く考える時間というのはあまり無いように思われます。この本はそうした音楽と心の関係について詳しく書かれているので選びました。

刀語

T・Y

刀語は人気作家 西尾維新の作品です。月に1度、12ヶ月に渡るアニメも大きな話題となりました。ライトノベル界の鬼才の文体も注目です。

かわいいウミウシ

Y・T

この本はずばり、ウミウシのかわいさを余すことなく伝える、ウミウシ萌え! 大人の為の本です! ピンクのやつ、青ーいやつ、ぼわーと発光するやつ、ぐちょぐちょしてるやつ。とにかくみーんなかわいい。…癒されます。

留学生が紹介する外国の図書館

INTEC 図書館

機械工学科3年

アティラ



私は日本に来る前の2年間マレーシアの国際教育学部（INTEC）で勉強していました。その図書館は快適に勉強することが出来たので、私はいつも図書館に行っていました。

INTEC の図書館には学生のための情報サービスセンターがありライブラリ関数などが利用できます。図書館は学生達の学問的ニーズを支援する機能を提供することができます。学生達の学習や研究を支援するために1985年に設立されました。現在、図書館は書籍、会議論文、論文などの印刷物を中心に78935冊のコレクションを持っています。

約205種類の雑誌の定期購読を行っています。また3415種類の雑誌はオンラインデータサービスによって見ることが出来ます。図書館にはいろんな分野のコレクションがあります。コレクションの範囲は幅広く、エンジニアリング、テクノロジー、ビジネス、経済学、化学、生物学、物理学、コンピュータサイエンス、数学、社会科学、建築、言語、芸術、心理学、教育、会計、法律、音楽などが含まれています。図書館の利用は、学生とINTEC 学術および非学術スタッフに開かれています。

図書館は利用者の知識向上のために新しいメディア/ICTを通して情報資源の他、様々な最新のコレクションを提供することが出来ます。教育を支援するためにすべての学習プログラムを強化しています。情報資源を学習することによって学習や研究を支援する目標を持っています。また、一定の研修や教育を通じて、訓練を受けた学生達に有益な施設を提供してくれます。

すべての学生は、勉強のために非常に良い環境を提供してくれるため、図書館に行くのが大好きです。私が本を読んで学習することができますので、私は友人と試験期間中図書館で勉強したいと思っています。



【表紙】 音戸大橋と第2音戸大橋

松山市と大洲市で平成23年度中国地区高等専門学校文化連盟写真部合同合宿が開催され、呉高専写真部の学生11名が参加しました。写真は往路のフェリーから撮影した音戸大橋と第2音戸大橋の写真です。第2音戸大橋は2013年春に開通予定です。

（撮影：呉高専建築学科3年 渡部桃子）

新任教員の随想

象を冷蔵庫の中に入れる方法



自然科学系分野 平松 直哉

象を冷蔵庫の中に入れる方法を知っているだろうか？

有名な話なので答えを知っている人はいるかもしれない。こうやって入れるんだって方法を思いついた人もいるだろう。答えは簡単である。「冷蔵庫の扉を開け、象を中に入れ、扉を閉める」だけでよい。なんだか騙されたような気持ちになる。私も初めて聞いたときはそう思った。私がこの話を聞いたのは大学の教養の授業のときである。そのとき、先生に言われた言葉が最近の私の読書感の基になっている。「現実には象は冷蔵庫の中に入らない。しかし、象は冷蔵庫の中に入っている。これがテキスト(文章)の持つ力である。解釈してはならない。テキストをそのまま味わいなさい。」

私の読書習慣は(そもそも少ないのだけど)基本的に、気に入った作家の本を読み続ける傾向がある。村上春樹、吉本隆明、リリー・フランキー、最近はずオ・イシグロの本を読んでいる。いつかはマルクスを読みたいとも思うのだけど、これは読まない可能性の方が高い。同じ作家の作品を読み続けると、作家の特徴というか、文章の特徴がなんとなくわかってくる。例えば村上春樹の作品には井戸がよく出てくる。ワタナベノボルが登場したり、2つの世界が舞台になっていたりする。短編小説が長編小説の一部に含まれていることもある。十数ページの話が核となり、文庫本2冊の長編小説に文章が紡ぎだされ、拡張されていくさまを味わうことができる。同じ作者の本を読み続けるからこそできる楽しみ方だろう。

私は読書を、時間をつぶすためにすることが多い。電車での移動中や待ち時間、寝る前に読んだりもする。もちろん活字だけではなく、漫画も読む。本を読むことでその時間、その本の世界に入り込むことができる。文章は自由である。そこで

は象は冷蔵庫に入るし、キリンだって入れることができる。わくわく、ドキドキする。悲しい気持ちにもなるし、感動をすることもある。ハードボイルドな物語を読むと、タフな男になってみたいと思う。本を読むことで、ただ消費されていくだけの時間がドラマティックでエンターテイメントな時間になるのだ。冒頭で私の読書感は「文章を解釈しない」と述べた。もちろんこれは私の読書感であり、自分の好きなように文章を解釈し、どんどん物語と違う方向に空想して読んでいくのも良いと思う。物語を自分の体験に置き換えて、主人公に感情移入をすることは読書体験をよりドラマティックなものにしてくれるだろう。

どうして本を読むのか。時間をつぶすためなら携帯ゲームをしたってよい。それでも私が本を読むのは、自分の中に様々な考え方や価値、知識を増やしたいからだと思う。例えば1950年代キューバ革命が起こり、フィデル・カストロやチェ・ゲバラが活躍した。知識としてならそれだけで十分かもしれない。でも、どうして彼らが革命を目指すようになったのか、どのような志を持っていたのか、そもそも彼らはどんな人物だったのか。そういったことを知るには彼らに関する本を読むしかない。文章には書き手の視点、価値観が表れるものだ。多くの読書は多くの異なる価値に触れることにもなる。

教科書を通して知ることができるのはほんの少しの事柄でしかない。ムーミン谷の吟遊詩人スナフキン「僕は自分の目を見たものしか信じない」という。私達はスナフキンのように世界を見て回ることはできないけれど、せめて本を読む(文字は目で見る)ことで信じるものを増やしていきたいと思う。

携帯やパソコンもいいけど 本を読もう！



機械工学分野 吉川祐樹

こんにちは、今年度から機械工学科に赴任しました吉川です。今回は本に関する随想を書くということでなかなか堅苦しいお題ですが、本について思うことを簡単に書いてみようと思います。

僕が初めて文庫本を読書したのは小学校の読書感想文でした。そのときに読んだ本のタイトルは「遠い海からきたCoo」という直木賞を受賞した本でした。男の子と恐竜の成長の話なのですが、初めて読んだ本だからか今でもその本の内容だけはなぜか覚えています。本は頭の中で想像するので強くイメージに残るんでしょうかね。その点、最近は携帯電話やパソコンでのメールやウェブを見る機会が多く、電子的な情報はあまり頭に残らない気がします。もちろん僕自身も電子機器に頼

っていますし、それ自体は便利なものとして否定はしません。むしろ時代の流れとして使えた方が良いと思います。でも情報化し過ぎた社会もどうか、と疑問に思う時もあります。

最近では読書をする学生さんは少ないと思いますが、たまには携帯電話やゲームから離れて、風の通る部屋でゆっくりと本を読んでみてはどうでしょう。忙しく流れる情報化社会の中で心が落ち着く良い時間になると感じます。教育的な観点からいえば国語力や漢字、日本語の勉強といった意味もあると思いますが、そんな堅いことは抜きにして久しぶりに何か一冊読んでみて下さい。たまには本を読むのも楽しいなと感じると思います。



読書が苦手な私の「読書歴」



建築学分野 光井周平

中学3年のとき、私は図書委員長を務めました。幼馴染が副委員長で2人で休み時間は毎日のように図書室に通っていました。そんな私は実は読書がとても苦手です。委員長だった頃はもちろんみんなの前で「私は読書が苦手です」とは言えず、読書マラソンや夏休みの読書感想文などの際には“頑張って”読んでいました。特にいわゆる“文学書”を読むのが苦手です。理由は今でもよく分かりませんが、あまり興味がわかないのです。国語の時間に教科書に載っている文学書の一部を読むのはよいのですが一冊読むのは大変です。夏目漱石、芥川龍之介、森鷗外、太宰治、宮沢賢治。いろいろチャレンジしましたが、読破したのは宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」くらいでしょうか。これもかなり苦労しました。

そんな私が読むのはいつも日本史や城郭建築に関する本ばかりでした。小学生の頃から買い集めた歴史関連の本は今ではかなりの冊数になり、自宅の中でかなりのスペースを占領しています。今日はそのうちいくつかを紹介したいと思います。

小学生の頃に夢中で読んでいたのは「学習まんがが少年少女日本の歴史（小学館）」。これはまんがですから読書のうちに入るのかという問題がありますが、私の日本史に関する知識のかなりの部分はこのシリーズから得たと思います。みなさんの学校の図書館にもあったのではないのでしょうか。日本史全体の流れを理解するには最適ではないかと思います。

中学生の頃に読んだのは「吉川英治著：三国志（講談社）」。これはおそらく私が初めて読破した小説で全8巻の長編です。第1巻の内容は少し退屈でしたが、第2巻以降は一気に読むことができました。数年前には三国志のゲームが流行した時期がありましたので、ゲームで三国志を知ったり興味を持ったりした学生も多いのではないのでしょうか。そんな人はぜひこの本を読んでみてください。楽しくて“一気に読む”経験ができると思います。

高専で学んでいた頃はお城の本をたくさん読んでいました。特に地元の広島城の本は何度も読み返したものです。創造演習の時間には広島城の石垣について調

べて発表しました。広島県立図書館に行っているいろいろと調べたことをよく覚えています。今では本丸と二の丸を残すのみとなった広島城ですが、江戸時代には南側は現在の相生通り辺りまではお城の範囲でした。「八丁堀」や「薬研堀」などお城に関係する地名もいくつか残っています。お城に興味がある人には「三浦正幸著：城のつくり方図典（小学館）」がおすすめです。城郭建築研究の第一人者の著作で図や写真が多く読みやすいと思います。ただ、この本もいわゆる“読書”の対象ではないようにも思います。

このように、文学書を避けて歴史関係の本ばかり読んでいたのが悪かったのか、私は文章を書くのが苦手です。特に長い文章を書くのが苦手で、書いている途中で「何を書きたいのか」「何を読み手に伝えたいのか」を見失ってしまうことが多々あります。文章を書く力や相手に物事を伝える力というのは卒業研究の発表のような場面ではもちろん、社会に出てから非常に重要となる能力です。読書はこのような力を養うのにとっても役立つことだと思います。私のように後から後悔する前に、みなさんは高専在学中に少しでも多く読書をしてほしいと思います。

さて、そんな私がここ最近よく読むのは“頭の中の整理の仕方”や“相手に分かりやすく伝える方法”に関する本です。その中でみなさんにおすすめしたいのが「永田豊志：頭がよくなる「図解思考」の技術（中経出版）」です。誰かの話を聞くと、自分の考えを誰かに伝えたいとき、聞いた内容や伝えたいことを図で表して整理することで、頭の中で情報を上手に整理し、相手に分かりやすく伝えることができるという内容で、図やイラストが多く非常に分かりやすく書かれた本です。シリーズの「永田豊志：プレゼンがうまい人の「図解思考」の技術（中経出版）」もあわせて読むとよいと思います。卒研や特別研究のプレゼンテーション作成に必ず役立つでしょう。

読み返してみるとやはり私の文章は分かりづらい。しかも紹介している本は“図や写真が多い”ものばかり。そろそろ私もちゃんと“読書”しないといけないですね。

私の推薦図書

徒然草
兼好
岩波文庫ほか



人文社会系分野 外村 彰

随筆集『徒然草』を推薦します。

心惹かれた名句（章段）を引くと、——「世の人の心惑はず事、色欲には如かず。人の心は愚かなるものかな」（8）／「ひとり、燈のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわざなる」（13）／「昔より、賢き人の富めるは稀なり」（18）／「名利に使はれて、閑かなる暇なく、一生を苦しむるこそ、愚かなれ」（38）／「家の作りやうは、夏をむねとすべし」（55）／「よくわきまへたる道には、必ず口重く、問はぬ限りは言はぬこそ、いみじけれ」（79）／「人ごとに、我が身にうとき事をのみぞ好める」（80）／「万の事、先の詰まりたるは、破れに近き道なり」（83）／「たゞ今の一念において、直ちにする事の甚だ難き」（92）／「身をやぶるよりも、心を傷ましむるは、人を害ふ事なほ甚だし」（129）／「花は盛りに、月は隈なきをのみ、見るものかは」（137）／「世に徒はん人は、先づ、機嫌を知るべし」（155）／「心は、必ず、事に触れて来る」（157）／「身を誤つ事は、若き時のしわざなり」（172）／「万事に換へずしては、一の大事成るべからず」（188）／「万の事は頼むべからず」（211）／「よき細工は、少

し鈍き刀を使ふ」（229）。——こんな風に、あまたの人生の智慧が、同書からは見受けられます。

ほかにも、第60段の、「芋頭」を好んだ盛親僧都の自由人ぶり、第71段の既視感、第89段の、飼犬を「猫また」と勘違いした連歌師の恐怖、第109段の「高名の木登り」が、高い木に登った弟子に対し、最も気の緩みやすい時に「あやまちすな。心して降りよ」と初めて助言をした話、第117段の「友とするに悪き者」と「よき友」の例、第139段の植えたい庭木、第175段の酒談議、第236段の狛犬への上人の感涙、などなどを読むと、何かこう、人生の機微に触れるような、渋い後味が残るのを覚えます。

全体を通読すると、おごらず謙虚に、分を弁えて人と接すること、生死事大（無常迅速）をいつも胸に抱いておくこと、世間のしがらみ、また流行にかかざらうよりも、ひたむきに「一事を励む」ことを、兼好は、自戒を込めて説いているように思われます。

若いころから拾い読みをし、中高年になっても読みなおしをするのにふさわしい、価値ある古典です。



100年前の女の子
船曳由美 著
講談社



電気情報工学分野 野村 博昭

本来なら、私の専門であるデジタル信号処理等の本などを推薦すべきところであるが、日本がこの3月、大震災に襲われ、より文化的で快適な生活を目指してきた生活スタイルを、全国民が見直されなければならない今だからこそ読んでほしい一冊があるので、あえてこれを推薦したい。

これは、明治42年に栃木県足利の高松村という小さな村に生まれ、明治・大正・昭和・平成を生きぬいて平成21年に100歳になった寺崎テイの物語である。

このテイは、筆者、船曳由美氏の実母にあたる。船曳氏は、雑誌「太陽」の創刊メンバーで、民族学研究者であり、ダンテの「神曲」の翻訳者などで知られる。船曳氏に、母テイは米寿をすぎた頃から、自分の幼い時の思い出を急に語りだしたという。その回想の中には、村の四季折々の暮らしが、鮮やかにちりばめられていた。

筆者は、そのテイの話に自分が調べた民族学や郷土史の事実をまじえて、100年前の女の子テイの成長物語として綴っている。

茶摘み、井戸替え、田植え、養蚕といった、女の子総出で労力をいとわず行う毎年繰り返される農家の仕事の風景、盆、正月などの四季折々の行事などが生き生きと語られる。そして、誰もが神を畏れ、仏を敬う心を持ち、村には子供の声が満ち溢れ、激しい野良仕事の合間には、つましいごちそうを作って大いに楽しむ様子が彩やかに綴られる。

テイの記憶をもとに綴られる100年前の日本人々のまっすぐに生きる暮らしぶりは、あまりに健全かつ豊かさにあふれ、まぶしいほどである。

より便利に、より快適にと利便性を追い求め、電気を使い放題に使ってきた、我々現代人の生活スタイルは間違っていたのではないかと大震災を期に多くの人が気づきはじめている。

この「100年前の女の子」を読むと、つましさと、ささやかな喜びを皆でわかちあいながら、自然と共存して生きる100年前の暮らしが、今の我々の生き方より、ずっと豊かで幸せな暮らしに思えてくるにちがいない。



幽霊たち
ポール・オースタ 著 柴田元幸 訳
新潮文庫

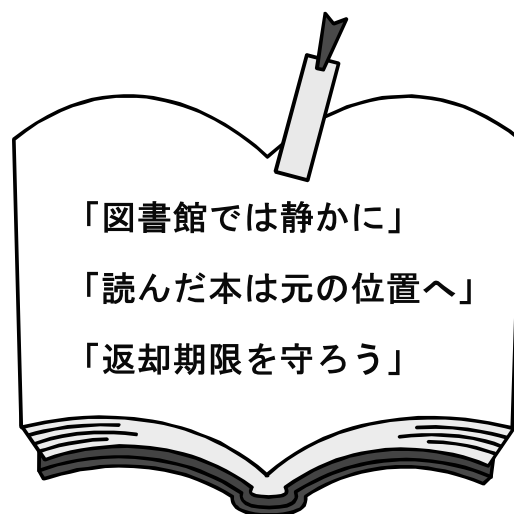


建築学分野 仁保 裕

私立探偵のブルーが受けた妙な依頼を発端とし、話は進んでいきます。進むには進むのですが、劇的な展開は殆どみられません。淡々と話は進み、気がついてみると主人公は「ブルー」という名前以外、自分自身が何者かを知らしめるもの全てを失っています。「失う」ということが悲劇的といえば悲劇的なのですが、読んでみると悲劇的な感じがしない。じゃあ読んでいて笑えるかといえば笑えないし、怒りも感じない。また、登場人物の名前は「ブルー」「ホワイト」「グリーン」「レッド」等々、全て色を表す名詞であり、よって登場人物の名前を並べてみるとカラフルな話に思えるのですが、読後感は「グレー」なのです。昔の詩人が「世界は終わる。メソメソと。ドカンとではなく…」と言ったそうですが、この言葉が「幽霊たち」には当てはまるように思います。

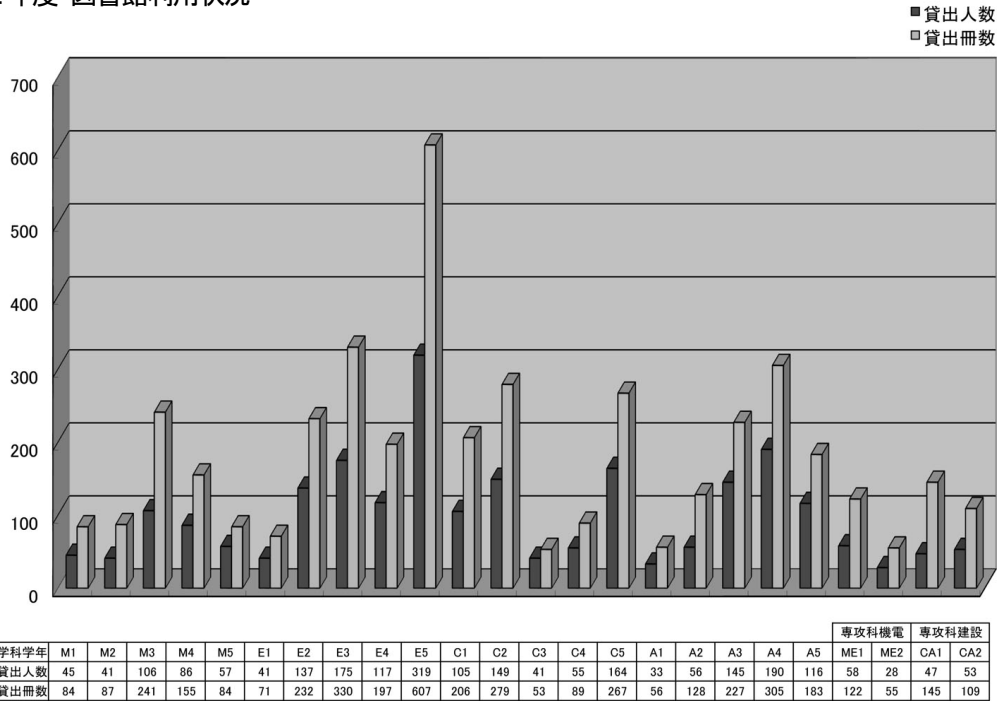
筆者がこの本を購入したのは高専3年生の頃。それ以来、何回も読み返しています。よくよく考えてみれば

退屈極まりない作品なのに、何が筆者にとって魅力なのか？いまだによくわかりません。「グレーな読后感」が魅力なのか、一つ一つは現実的と思えるのにそれらをつなぎ合わせると非現実的な感じがするのが魅力なのか…説明できません。この拙文を読んで気になったのであれば手にとって読まれることをお勧めします。そして「幽霊たち」を読んで「何だかわからんけど面白い」と感じたアナタ、同じくポール・オースターの「ガラスの街」と「鍵のかかった部屋」もどうぞ。ちなみにポール・オースター読者たちはこの2作と「幽霊たち」をまとめて「ニューヨーク三部作」と呼んでいます。この三部作に嵌ったなら後は手当たり次第、オースター作品を読み漁ってみてはいかが？（できましたらニューヨーク三部作を図書館に置いていただけませんか？あと、できましたら同じくオースター作の「ムーン・パレス」と「ミスター・ヴァーティゴ」も）



お知らせ

・平成22年度 図書館利用状況



貸出回数上位ベスト10

(調査対象期間:H22年10月1日~H23年3月31日)



順位	書名
1位	SPIテストセンター問題集完全版【2010】
2位	TOEICテスト新公式問題集
3位	王様ゲーム
4位	キケン
5位	大学編入試験問題数学/徹底演習
	本格推理委員会
	明解Java;入門編
	やさしいC++
	フリーター、家を買う。
	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら
	悪の教典
12位	新TOEIC TEST「正解」一直線
	カッコウの卵は誰のもの

編集後記

「図書だより第51号」をお届けします。

「図書だより」はこれまで年1回発行でしたが、今年は年2回発行を予定しています。その分タイムリーな内容になったのではないかと思いますがいかがでしょうか？次号はみなさんが夏休みに書いた読書感想文を掲載予定です。

最後に、今号の発刊にあたりご多忙にも関わらず原稿を執筆していただきました方々に心からお礼申し上げます。